

# 白井市の産業の振興 ・活性化への意見書

※黄色の網掛けの部分は現在市で取り組みを開始している項目です。

平成27年3月

白井市産業振興ネットワーク

# 【農業の活性化策】

## (1) 白井梨の更なるブランドカアップを図っていく

### (白井梨を取り巻く現状と課題)

#### 白井梨ブランドの知名度が低い・PR不足など

- 1 千葉県は梨の生産量日本一、白井市は県内で一番の生産地である。
- 2 味が自慢の白井梨は、船橋市場では一目を置かれている。
- 3 首都圏から近く、東京の市場へは出荷しやすいが周辺産地もブランド力がアップしている。
- 4 味がおいしいという白井梨のブランド力は、市場関係者の中だけに留まっており知名度に欠ける(周辺地域のみ、東京では知名度が薄い)(2、3、4は市場調査より)
- 5 「フナッシー人気」に押されるなど、PRが少ないと思われる。
- 6 梨を象徴とする施設がなく、直売所が集客のとれる国道16号や464号沿いにまだ少ない。  
(やおばあく・博物館・研究所・体験農園・観光農園・グッズ店・道の駅等)
- 7 市民に白井梨が(ふるさとと産品として)おいしいことをもっと知ってもらうべきである。

#### 生産者の高齢化・後継者問題など

- 8 気候や気象条件の変化や経済情勢の厳しさと共に、象徴的な梨生産者像が薄いせいか、梨農家に魅力を感じる若い世代があまり育たず、生産地や農家そのものが減少し、生産者の高齢化も進んでいる。
- 9 若者の地元離れなどにより、梨農家の中には後継者がなく辞めていくところもある。

#### 産学連携など

- 10 関連する大学などの研究機関との連携がまだ薄い。
- 11 生産技術的・営業専門のアドバイザーやコーディネーターの存在がない。

#### ご当地グルメ

- 12 梨を利用したご当地グルメ(産品)がない。(以前は梨ブランディーがあった)

### (活性化のための方策)

#### ①白井梨ブランドの知名度アップのため広域へのPR戦略を図っていく

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

※この指標は施策化のための一定の目安となるよう整理したものです。

意見の内容	優先度	事業費
○市ふるさと産品の梨として、ふるさと納税やITを利用した販売等への取組みのほか産地名のシール貼りなどによるPRを図る。	A	◎
○どうして白井梨がおいしいのか、わかり易い理由や有名デパートで販売されていること、美味しい新品種などのPRによってブランド力を高める。	A	◎
○白井産ということが一目でわかるように、なし坊ファミリーを宣伝キャラクターとして、スーパーやデパートの販売コーナーへもパッケージ類とサービスグッズなどを取り揃えて、全面的に売り出して行く。	A	◎
○PR専門の営業担当アドバイザーやコーディネーターを活用する。	A	○
○海外への売り込みも継続しつつ、国内他地域へもPRし、PR方法の高度化を図る。(IT・TV等情報通信機器等の最大限利用する。)	A	○
○有名デパートへの売込みや市場調査をする。	A	○
○市ふるさと産品のブランド梨としての梨専門(HP)冊子を作る。	A	○
○市ふるさと産品として大手通販会社の販売ラインに載せてもらう。	B	○

## ②白井梨（なし坊）センター・直売所等の整備、取組み

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○駅前等の直売所やマルシェ（青空市場）などでも販売をする。	A	○
○やおばあくなどの直売所で、ITなどの情報媒体を利用してPR強化を行う。	A	○
○地元果物等を移動販売によって地産地消に取り組んでいく。	A	○
○白井梨（なし坊）センター(梨研究所・博物館・道の駅等)の構築、なし坊グッズやふるさと製品の販売をする。	B	△
○国道16号（やおばあく）・464号沿いにおいて直売所や観光農園（BBQ広場）等の配置を誘導する。	B	△

## ③梨農家が生産し易い環境づくりを進める

意見の内容	優先度	事業費
○梨生産者をやり易くする環境づくりを進める。(台風時などの収穫、その他作業を手伝える人の確保及び体制作りと手伝える人の講習会や登録制度（シルバー人材センターで一部取組中）、農業機械のシェアリング制度の確立、TPPの対応)	A	○
○ITを利用して生産技術や経営手法などの情報の共有化に取り組んで行く。	A	○
○梨農家創業支援制度の整備（貸農地などで創業しやすい体制の検討）と梨農家経営支援制度の強化を図る。	B	○
○梨畑としての貸農園（オーナー制度）・クラインガルデン（長期滞在（別荘）型農業宿泊（研修施設としても利用）施設）の整備と制度の確立を進める。	B	△

## ④キャリア教育等による梨農家が抱える後継者・高齢化問題への対応策

意見の内容	優先度	事業費
○市内小・中学校で農業体験授業を実施する。	A	◎
○広報しろいやHPなどを利用して若い優秀な生産農家を紹介する。(イメージアップ)	A	◎
○梨生産者の協力を得て街コンの開催、街コン事業の企画及び専門事業者を募る。	B	○
○紹介ビデオを作製しキャリア教育・イメージアップにも役立てる。	B	○
○後継者の育成の機会を設ける。(研修・体験農場の整備及び梨生産学習・研修)	B	△

## ⑤専門機関等との技術交流・情報収集（産学連携）による、生産力・販売力アップ

意見の内容	優先度	事業費
○大学などと連携し、生産技術や経済的なアドバイザーやコーディネーターの育成と活用を図る。	A	○
○気象条件への対応策の（災害に強い梨生産）研究と支援（大雨・雹・冷害・台風時の対応準備と対策）を図る。	B	—

## ⑥白井梨のブランドカアップに欠かせない加工商品の開発（6次産業化）

意見の内容	優先度	事業費
○ブランド力を前面に打ち出した梨の加工商品を（白井市ふるさと産品等として）産出していく。(梨ピューレ・シャーベット・カレー・ドレッシング、長十郎のたれ、梨と何かのミックスジャムなど)	A	○
○梨の加工商品を学校給食などのメニューとして利用を図る。	A	◎

## (2) 近郊農業地域の後継者の育成・農地を維持保全する

### (白井の(梨を除いた)農業全般にかかる現状と課題)

#### 首都圏の近郊農業地域・PR不足

- 1 自然薯(白井市ふるさと産品)やネギなどの産地である。
- 2 首都圏から近く、東京の市場へは出荷しやすい(近郊農業地域である)が周辺産地もブランド力がアップしている。(PR不足もあるのでは) (再掲)
- 3 団塊の世代などでは農業生活への魅力発見・見直しがされつつある。
- 4 農産物の直売所が集客のとれる国道16号や464号沿いに売り場がまだ少ない。  
(やおばあく・体験農園・観光農園・グッズ店等)
- 5 農業の生産法人がない。

#### 生産者の高齢化・後継者問題など

- 6 気候や気象条件の変化や経済情勢の厳しさと共に、象徴的な農業者像が薄いせいか、農家に魅力を感じる若い世代が育たず、畑や農家そのものが減少し、農家の高齢化も進んでいる。
- 7 若者の地元離れなどにより、農家の中には後継者がなく辞めていくところもある。

#### 産学連携など

- 8 関連する大学などの研究機関との連携がまだ薄い。 (再掲)
- 9 生産技術的・営業専門のアドバイザーやコーディネーターの存在がない。 (再掲)

#### ご当地グルメなど

- 10 農産物を利用した象徴的なご当地グルメや産品がない。 (再掲)

### (活性化のための方策)

#### ①白井梨ブランドと共に広域へのPR戦略を図っていく

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○市ふるさと産品の自然薯などを利用し、ふるさと納税やITを利用した販売等への取組みによるPRを図る。 (再掲)	A	◎
○白井産ということが一目でわかるように、なし坊ファミリーを宣伝キャラクターとして、スーパーやデパートの販売コーナーへもパッケージ類とサービスグッズなどを取り揃えて、全面的に売り出して行く。 (再掲)	A	◎
○PR専門の営業担当アドバイザー・コーディネーターを活用する。 (再掲)	A	○
○市ふるさと産品の自然薯などを利用した特産品の加工商品・料理を産出する。	A	○

#### ②ブランド野菜を生み出す直売所等の整備、地産地消等への取組み

意見の内容	優先度	事業費
○直売所やマルシェ(青空市場)などでも販売をする。 (再掲)	A	○
○学校給食などの食材料として利用促進を図る。	A	◎
○地元野菜・果物等を移動販売によって地産地消に取り組んでいく。 (再掲)	A	○
○やおばあくなどの直売所を、ITなどの情報媒体を利用してPR強化を行う。 (再掲)	A	○
○国道16号(やおばあく)・464号沿いにおいて直売所や観光農園(BBQ広場)等の配置を誘導する。 (再掲)	B	△

### ③近郊農業地域として生産し易い環境づくり

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○農業生産者をやり易くする環境づくりを進める。(台風時などの収穫、その他作業の手伝える人の確保体制作りと手伝える人の講習会・登録制度(シルバー人材センターで実施中)・農業機械のシェアリング制度の確立、T P Pへの対応)(再掲)	A	○
○ITを利用して生産技術や経営手法などの情報の共有化に取り組んで行く。(再掲)	A	○
○農業の創業支援制度整備(貸農地などで創業しやすい体制の整備)と農家経営支援制度の強化を図る。(再掲)	B	○
○貸農園(市民農園)やクラインガルデン(長期滞在(別荘)型農業宿泊(研修施設としても利用)施設)の整備・(オーナー)制度の確立を進める。(畑の維持保全・耕作放棄地の解消)(再掲)	B	△
○ソーラーシェアリングによる農地の維持・保全を図る。	C	△

### ④キャリア教育等による農家の後継者・高齢化問題への対応策

意見の内容	優先度	事業費
○市内小・中学校で農業体験授業を実施する。(再掲)	A	◎
○広報しろいやHPなどを利用して若い優秀な生産農家を紹介する。(イメージアップ)(再掲)	A	◎
○街コンの開催、街コン事業の企画及び専門事業者を募る。(再掲)	B	○
○後継者の育成の機会を設ける。(研修場・体験農場の整備及び農業生産学習・研修)(再掲)	B	△

### ⑤専門機関等との技術交流・情報収集(産学連携)による、生産力・販売力アップ

意見の内容	優先度	事業費
○大学などと連携し、生産技術や経済的なアドバイザーやコーディネーターの育成と活用を図る。(再掲)	A	○
○気象条件への対応策の(災害に強い農業)研究と支援(大雨・雹・冷害・台風時の対応準備と対策)を図る。(再掲)	B	—

## 【商業の活性化策】

### (3) 憩いの場のあるまちとして

#### 商業の活性化に向けた取り組みと後継者の育成

##### (商業に関連する現状と課題)

###### 市内商業環境の現状と課題

- 1 ベットタウンとして醸成してきているので駅前商圈が担保されている。
- 2 アーケードとして成り立っている商店街は少なく、各エリア内に此処に存在している店舗等が多い。
- 3 シャッターの閉まった店舗がある。
- 4 周辺市に比べて商業が栄えていない。
- 5 周辺市には大型ショッピングモールがあるため、それらの施設で週末等の買い物需要が高いため、市内には日用品・食糧品以外の商業施設は人口の割には少ない。(さびしい)
- 6 各駅前の商店街は、歩車道が分離され近代的な設計である。
- 7 市を代表するふるさと産品等の知名度が低く・イメージアップ・PRが足りない。
- 8 事業者への支援体制が薄い。

###### 商業に関連するアクセス事情等の現状と課題

- 9 国道 16 号・464 号(北千葉道路)に面している事業用地・利用可能エリアがある。(ドライブインや物流施設利用の可能性)
- 10 電車賃が高い。
- 11 高速道路からのアクセスが悪い。

###### 商業に関連する高齢化問題・市民の意識等の現状と課題

- 12 従業員が高齢化し、後継者や若い担い手が育たない。
- 13 高齢化が進む中で、定住意識が低く、産業人口も減っていく。
- 14 市内で働きたいという意識の高まりはあるが、働く場所が少ない。
- 15 地方で生活時間を優先する志向が高まってきた。
- 16 若者の首都圏へ就職希望が増加し、市内で働く人の割合が少ない。

##### (活性化のための方策)

#### ① 憩いのあるまちとしてイメージアップ・PR戦略を図っていく

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○市ふるさと産品を利用してふるさと納税やITを利用した販売等への取り組みによるPRを図る。(再掲)	A	◎
○市民への人気商品・商店などのPRを図る。(白井の仕事人(広報しろい)・現地見学会・地方ミニコミ誌などを利用する。)	A	◎
○健全経営を進めている事業者の表彰・若い優秀な商業事業者の紹介をする。	A	◎
○なし坊ファミリーを宣伝キャラクターとして、デパート等の販売コーナーへもサービスグッズなどを取り揃えて、全面的に売り出して行くとともに、直売所やマルシェ(青空市場)などでも販売をする。	A	○
○ふるさと産品業者の育成・ご当地グルメを発掘していく。	B	○
○PR専門の営業担当アドバイザー・コーディネーターを配置する。(再掲)	B	○

## ②市民の憩いの場となる多彩なイベント等の取り組みによる活性化を育む

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○人の集まる仕掛けづくりとして多彩なイベントを色々なところでやってみる、単発的でも良いので何かをまずはやりだしてみる。	A	◎
○市内事業者による、周辺商店と協力した、ウォークラリーなどを利用した街おこしの企画を図っていく。	A	◎
○駅前マルシェ・青空カフェ等を実施する。また、協力体制の構築やNPOの立ち上げを図っていく。	A	○
○マルシェを七次台（条件の良い）公園などでやってみてもいいのでは。その他ではビール祭りなどがある。	A	○

## ③市民の憩いの場づくりとなる活性化に向けた取り組み・支援を図っていく

意見の内容	優先度	事業費
○プレミアム商品券等の取り組みにより、市内消費を喚起させる。	A	△
○閉鎖店舗を学生などへ自由につかってもらって若い発想を取り入れる。	A	◎
○市内事業者の市内施設への商業製品・小規模工事などの受注を促す。	A	◎
○色々な問題に気軽に相談できるアドバイザーのような、よろず相談所システムの構築を図る。	A	○
○人が集まる仕掛けとして「買い物に来る」、「遊びに来る」、「学びに来る」、「仕事に来る」、「健康を維持するために来る」などを視点に捉えた場所づくりを考える。	A	—
○融資制度や相談事業などの事業者への支援を継続する。	A	○
○条例を基に（地産地消など）地域産業循環を図る事業づくりを進める。	B	○
○市の独自の（創業）支援を検討する。	B	△

## ④賑わいとふれあいを呼ぶインフラ等の整備促進及び取り組みを進める

意見の内容	優先度	事業費
○国や県へ北千葉道路の整備促進及び電車賃下げを働きかける。	A	◎
○人が移動し易い交通手段等の整備・取り組みと物流システムの構築を図っていく。	A	△
○商業用地等の新たな検討を図っていく。	C	△
○新たな商業用地等に対して道路・排水等のインフラ整備を推進する。	C	△

## ⑤キャリア教育等による商業事業者の後継者・高齢化問題への対応策

意見の内容	優先度	事業費
○シニアの時間にゆとりのある方の力を取り入れる。	A	◎
○各小中学校・高校生や市民へ事業者のPRと併せた職業教育・職業体験を促す。	A	◎
○白井への愛着心を育ませるため、地元事業者に入社した人たちに白井の産業に関するオリエンテーションを開き、白井で働くことへの課題の吸い上げを行う。	A	◎
○お助け隊の取り組みとIT機器を利用した販売店の利用促進を図る。	B	○
○街コンの開催、街コン事業の企画及び専門事業者を募る。(商工業者の参画)(再掲)	B	○
○高齢化社会に向けた医療・福祉・介護産業の活性化を図る。	B	△

## (4) 憩いの場となる駅前の賑わいを創出する

### (駅前に関連する商業等の現状と課題)

- 1 ある程度の広さのある駅前広場スペースがある。
- 2 駅前に賑わいがなく昼間に会食する飲食店が少ない。(駅前にファミレスもないという意見が多い)
- 3 周辺住民には駅前に魅力がないため定住意識が低い理由の一つになっている。
- 4 駅前の一等地が利用されないまま空き地(借地)になっているところがある。
- 5 駅周辺には集合住宅があり利便性が良く、駅を利用する乗降客など、ある程度の集客力がある。
- 6 事業の展開次第では、十分な収益も出る場所にある。
- 7 昼間の利用客は少ないが、主婦層の利用が想定できる。
- 8 国道464号からは、駅前ロータリーが見えない道路構造になっている(商益価値が低い)。
- 9 車で直接乗り入れられる駐車スペースが少なくなった。
- 10 車で直接乗り入れられる駐車スペースがある事業用地がある。(搬入に適している)
- 11 駅前の商店街は、車と歩行者が分離されており、設計としては近代的でよい。
- 12 駅周辺に閉鎖店舗がある。

### (活性化のための方策)

#### ① 市民の憩いの場の創出のため駅前マルシェ(青空市場)などを利用提案する

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○人の集まる仕掛けづくりとして多彩なイベントを色々なところでやってみる、単発的でも良いので何かをまずはやりだしてみる。(再掲)	A	◎
○駅前の空き事業用地・連絡橋・駅前広場を利用して、駅前商店会からワゴンセール等の協力や自治会も参加した駅前マルシェ(青空市場)の利用提案をする。(屋台村でなくマルシェとする)	A	◎
○現在、白井市役所駐車場でやっている朝市やバザーなどを、駅前(マルシェ)で実施し、絶好のロケーション作りを進める。	A	◎
○多彩なイベント(マルシェ・青空カフェ等)を実施していくための協力体制の構築や、NPOの立ち上げを図っていく。	A	○
○駅前等に、人が集まり易い交通手段の整備、駐車スペースの確保方法を検討する。	A	△
○催し物として、朝市(地元野菜直売所)、フリーマーケット、屋台店舗、舞台発表会(ダンスパフォーマンス・演奏会・大道芸人)、ふるさと産品店舗、なし坊グッズ販売、電気製品、工業(団地での製造)製品、商店街ワゴンセール、青空カフェ、自治会の催し物など多目的行事や販売会を実施する。	B	○

#### ② 駅前商店街の賑わいとふれあい呼び込む取り組みを進める

意見の内容	優先度	事業費
○プレミアム商品券等の取り組みにより、市内消費を喚起させる。(再掲)	A	△
○多彩なイベント(駅前マルシェ)への取り組み・協力(ワゴンセール・青空カフェ、夜は屋台村・ビール祭等)をしていく。	A	○
○よろず相談所システム等の構築を図っていく。	A	○
○市の独自の(創業)支援制度を構築していく。(再掲)	B	△

### ③ 駅周辺の空き店舗等を活用して賑わいとふれあいを創出する取り組みを進める

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○閉鎖店舗を学生などへ自由につかってもらって若い発想を取り入れる。(再掲)	A	◎
○シニアの時間にゆとりのある方の力を取り入れる。(再掲)	A	◎
○NPO法人へ空き店舗の利用等について働きかける。	A	◎
○空き店舗や事業用地への情報PRを図っていく。	A	◎
○空き店舗へのカフェ・サロンへの利用促進を図る。	A	○
○人が集まる仕掛けとして「買い物に来る」、「遊びに来る」、「学びに来る」、「仕事に来る」、「健康を維持するために来る」などを視点に捉えた場所づくりを考える。 (再掲)	A	—

# 【工業の活性化策】

## (5) 歴史ある工業事業者の

### 優れた技術力のPRと後継者の育成

#### (工業関連の現状と課題)

##### 市内の工業環境の現状と課題

- 1 白井工業団地が約50年の歴史を重ね、開設当時の事業者も存在し、周辺市に比べて工業が栄えている。
- 2 工業団地協議会の組織がしっかりしている。
- 3 世界や日本に誇れる優れた技術を持っている中小事業者があるが、産学連携の利用がまだ少ない。
- 4 市内在住の勤務者は首都圏サラリーマンより時間にゆとりがある。
- 5 中小企業が過半数を占めているが零細企業も混在する。
- 6 国内産業の活発化・海外流出から国内志向へ変化しつつある。
- 7 経済情勢の影響を受けて衰退していく事業所もある。
- 8 暗いイメージがある。

##### 工業に関連するアクセス事情等の現状と課題

- 9 首都圏、成田・羽田両空港に近い。
- 10 国道16号・464号(北千葉道路)に比較的近い。(物流に便利)
- 11 高速道路ICからの距離があるため、国道16号・464号からのアクセス道路の整備が期待されている。
- 12 電車賃が高い。
- 13 バス便等が少ない。
- 14 企業誘致の必要性・事業用地確保の必要性がある。
- 15 公園などの避難所や休憩スペースがない。

##### 工業に関連した高齢化・後継者問題等の現状と課題

- 16 後継者が育たず、世界や日本の中で誇れる技術力の伝承がうまくいかない傾向がある。
- 17 社員の高齢化・若い世代の社員の確保が難しい。
- 18 定住者の減・定住意識が低い。
- 19 産業人口が減っていく。
- 20 I・Uターン現象も出てきつつある。
- 21 若者の首都圏へ就職希望が増加している。
- 22 市内で働く人が減る。

#### (活性化のための方策)

##### ① 歴史ある内陸工業団地の明るいイメージアップ・PR戦略を進める

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○市民への工業者の優れた技術力のPRをしていく。(白井の仕事人(広報しろい)・現地見学会・地方ミニコミ誌)	A	◎
○働きやすい職場環境を目指して明るいイメージを引き出して行く。	A	—
○IT関連も視野に入れ、技術力の向上を目指して産学連携を図っていく。	A	—
○健全経営を進めている事業者の表彰規定を整備し表彰する。	B	◎
○技術認定等の新しい認定制度を検討する。	C	◎

## ② 工業事業者の優れた技術力を生かして、活性化に向けたイベント等への取り組み

※優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見の内容	優先度	事業費
○白井工業団地産業振興センターの開設及び利用促進を図る。	A	△
○市内の各施設へ、市内製造製品・技術の協力を促していく。	A	◎
○開かれた工業団地を目指して（産学連携などを活かしてできた技術・製品を）多彩なイベント等へ参加・協力を図っていく。（様々な展示会・駅前マルシェなど） （工業製品・技術も参加、フライパンなど）	A	○
○補助制度や相談事業などの事業者への支援を継続する。	B	○

## ③ 事業活動がし易い環境を求めたインフラ等の整備を促進する

意見の内容	優先度	事業費
○新たな事業用地の必要性が求められているため、その確保を図る。	A	△
○物流の事業活動がし易いように道路等の環境整備を推進する。	A	△
○白井工業団地内の畑・山林・生産緑地等を利用する手だてを考える。	B	◎
○白井工業団地内の公園（休憩スペース）・上水道・排水等のインフラ整備を推進する。	B	△
○白井工業団地内のバス便等の交通手段の充実を図る。	C	△

## ④ 優れた技術力を継承するため後継者・高齢化問題に向けて取り組む

意見の内容	優先度	事業費
○各小中学校・高校生や市民へ事業者のPRと併せた職業教育・職業体験を促す。 (再掲)	A	◎
○地元事業者に入社した人たちに白井の産業に関するオリエンテーションを開き、白井への愛着心を育ませ、白井で働くことへの課題の吸い上げを行う。(再掲)	A	◎
○企業努力と社会活動への協力を推進する。	A	—
○共同で求人活動する取り組みを図る。	A	◎
○街コンの開催、街コン事業の企画及び専門事業者を募る。(工業事業者の参画) (再掲)	B	○
○高齢化社会に向けた医療・福祉・介護産業の活性化を図っていく。(再掲)	B	△
○産学連携などを有効的に利用して、農業と工業をつなぐコーディネーターを配置する。	B	○

## 【その他の産業の活性化策】

### (6) 豊かな水辺等の（憩いの場となりうる）自然資源

#### の活用とその整備・維持管理等による産業の活性化

##### (豊かな水辺周辺環境の現状と課題)

###### 競馬学校周辺の現状と課題

- 1 日本唯一のJRA日本競馬学校がある。現在活躍中の騎手など数多くのスター騎手の母校である。
- 2 JRA日本競馬学校は今まで白井市にあることをあまり知られてなく、PRすることを避けてきた。

###### 神崎川周辺の現状と課題

- 3 神崎川流域には水辺の景観が残っており、小魚・小鳥などの小動物が生息する自然・景観資源である
- 4 神崎川上流部は、以前から周辺住民の声の中に、水辺の散策路的な整備求められていたが、河川が未改修であったため、手付かずにいた。(近年河川改修もほぼ終了)
- 5 神崎川は市の中心を流れその周辺には4万人近くの市民が住み、憩いの場として求める声がある。
- 6 神崎川は、白井市・船橋市が流域である。
- 7 夏場になると草が生い茂り川の流れを妨げるとともに、目立たないことからゴミの捨て場所になる。

###### 二重川周辺の現状と課題

- 8 二重川流域にも水辺の景観が残っており、小魚・小鳥などの小動物が生息する自然・景観資源である。
- 9 二重川は、船橋市、鎌ヶ谷市、白井市が流域となる。

###### その周辺地域の市民の動向

- 10 オリンピック開催によるスポーツ振興と共に健康志向によるランニングジョギング、犬との散歩・散策、サイクリングの進行とそういった施設を求める声が多くなっている。

###### 手賀沼水系（金山落とし）、今井の桜周辺の現状と課題

- 11 手賀沼周辺・金山落とし流域には、周辺から親しまれる今井の桜や市内最大となる水辺の景観が残っており、小魚・小鳥などの小動物が生息する自然資源である。
- 12 県立印旛・手賀自然公園に隣接する南部手賀沼の水系（金山落とし）は、柏市、鎌ヶ谷市、白井市が流域となっている。特に今井の桜並木は、広範囲の周辺住民がリピートして訪れる人が年々多くなっている状況がある。
- 13 しかしながら、今井の桜並木も植樹後50年を超えており、老木となって枯れる木もある。
- 14 白井工業団地の雨水排水も流入している。
- 15 近年、大雨ごとに氾濫を起こしている。
- 16 夏になると水路沿いの雑草が背丈ほどにまで伸びて桜の木を枯らせる原因にもなっている。
- 17 かなな街道のカンナが以前はもっと咲いていたが少なくなってしまった。

###### その周辺の市民の動向と課題等

- 18 そのために、周辺水田農家や住民には駐車場やトイレがないことなどから迷惑が掛かっている。
- 19 NPO団体等によって様々な事業活動が行われている。

(活性化のための方策)

① 競馬学校を含めた神崎川水系の散策路整備（憩いの場としての利用）を進める

優先度 A(高)、B(中)、C(低) 事業費 ◎(安)、○(中)、△(高)

意見内容	優先度	事業費
○西白井駅から結び、散策路マップを作成する。(休憩所、茶飲み処、産直販売所などを紹介)	A	◎
○散策路ルート of 整備・駐車場・トイレ・園名版・案内板等を設置する。	A	△
○白井運動公園まで連結し、白井市の景観を楽しめる梨マラソンコースとしても利用していく。	B	△
○千葉県との協議により印旛沼ルート of 連結整備による集客も図る。	C	△

②二重川水系の散策路整備と神崎川散策路・印旛沼周辺コースとの連結計画

意見内容	優先度	事業費
○神崎川水系の散策路と連結し周回コース・印旛沼周辺コース（県管理）への連結整備を図っていく。	A	△

③今井の桜・南部手賀沼周辺の散策路整備（憩いの場としての利用）を進める

意見内容	優先度	事業費
○散策路マップを作成する。(休憩所、茶飲み処、産直販売所（野菜・果物・卵）などを紹介) (再掲)	A	◎
○散策路ルート of 整備・駐車場・トイレ・園名版・案内板等を設置する。 (再掲)	A	○
○千葉県との協議により手賀沼南部・北部ルート及び利根川ルート of 連結整備による集客も図る。	C	△

④産業振興を兼ねた市民の憩いの場の維持管理等の手法・手立てを進める

意見内容	優先度	事業費
○整備や設置だけでなく草刈事業（地元事業者を利用）やゴミ拾い等の維持管理体制も構築する。	A	○
○NPO法人等へ文化活動や維持管理などへの協力を呼びかける。	A	◎
○桜の木の管理、桜の補植事業、樹医による指導を受ける。	A	◎
○絵画や手芸品を展示したギャラリーウォーク（美術展）なども利用（して他の農産品なども販売）する。	A	◎
○憩いの場の維持管理事業や茶飲み処・産地直売所の整備、農業生産者の環境改善などにより農業・産業の活性化につなげる。	B	◎

## 白井市産業振興ネットワーク委員名簿

(条例規定順：敬省略)

No.	氏名	推薦団体等	備考	就任 年月日
1	もりよし やすお 森吉 泰生	学識経験者	○白井市産業振興ネットワーク委員長 千葉大学教授 工学博士	H25. 4. 1
2	そだ てつや 曾田 哲也	学識経験者	公益財団法人 千葉県産業振興センター 総務企画部 企画調整室長	H25. 4. 1
3	いづか つねお 飯塚 恒雄	産業経済団体	西印旛農業協同組合経済部長	H25. 4. 1
4	やまぐち よしひろ 山口 善弘	産業経済団体	白井市商工会副会長	H25. 4. 1
5	のみず としお 野水 俊夫	産業経済団体	○白井市産業振興ネットワーク副委員長 一般社団法人 白井工業団地協議会 副代表理事 野水鋼業株式会社 代表取締役	H25. 4. 1
6	はやし えいぞう 林 榮造	事業者（農業）	白井農業研究会会長	H25. 4. 1
7	ゆあさ みよこ 湯浅 美代子	事業者（農業）	白井市農産物加工研究会会長	H25. 4. 1
8	やまだ まさお 山田 政男	事業者（商業）	白井市商工会理事	H25. 4. 1
9	すずき じゅんこ 鈴木 順子	事業者（商業）	白井市商工会理事 富士商店会 会長	H25. 4. 1
10	かない しょうじ 金井 正治	事業者（工業）	一般社団法人 白井工業団地協議会理事	H25. 4. 1
11	やまもと たつお 山本 達男	事業者（工業）	一般社団法人 白井工業団地協議会理事	H25. 4. 1
12	いのうえ えいじ 井上 栄次	市民		H25. 4. 1
13	えのもと ひさみ 榎本 久美	市民		H25. 4. 1
14	おさだ としひろ 長田 敏弘	市民		H25. 4. 1
15	たけだ かずと 武田 一登 もり まさひこ 森 雅彦	市内 銀行	株式会社千葉銀行 白井支店長	H26. 7. 1 H25. 4. 1～H26. 7. 1

# 産業振興ネットワーク会議の審議経過

第1回H25. 7. 1 (月)

- 1 産業振興条例について
- 2 市の産業概況について
- 3 市のふるさと産品について

第2回H25. 10. 7 (月)

- 1 産業振興に係る意見と今後について
- 2 市のふるさと産品について

第3回H26. 2. 4 (火)

- 1 他市町村事例紹介
- 2 これまでの意見について
- 3 産業振興活性化策(仮称)について

第4回H26. 7. 2 (水)

- 1 これまでの意見のまとめ
- 2 他市町村等事例紹介
- 3 産業振興活性化策(仮称)について

第5回H26. 10. 2 (木)

- 1 今後のスケジュール
- 2 会議整理事項・これまでの意見のまとめ
- 3 白井市の産業振興・活性化への意見書たたき台(案)について

第6回H27. 2. 3 (火)

- 1 今後のスケジュール・これまでの意見のまとめ
- 2 白井市の産業の振興・活性化への意見書(案)について

森吉委員長との意見書(案)の調整作業

H27. 3. 10 (火)

市長へ意見書を提出

H27. 3. 20 (金)